



つながる。まわる。圏央道。

圏央道（久喜白岡JCT～境古河IC）が開通しました



— 記者発表資料 —

国土交通省

東日本高速道路株式会社



圏央道の開通により、渋滞している都心通過を回避
観光や企業活動が活性化するなど、ストック効果※が発現

～圏央道（久喜白岡JCT～境古河IC）20kmの開通によるストック効果（開通3ヶ月後）～

※ストック効果：整備された社会資本が機能することによって、継続的に中長期的に得られる効果

<主なストック効果>

- 埼玉県北部方面から成田空港に向かうバスが、**混雑している都心を迂回**することで、**定時性の向上と移動時間が短縮**
成田空港行き的高速バスでは、圏央道開通を契機に、運行ルートの変更や停留所の新設を検討
- **都心を通過せず**、成田空港、東名高速等の観光地へ**移動が可能**となり、**観光ツアー、観光バス事業を拡大**
沿線の観光バス事業者では、圏央道の開通を契機に新規バスを15台増車、新たな観光ツアー企画を検討
- 開通区間に**並行する一般道**を走行する路線バスの**定時性が向上**
東武動物公園駅（バス停）→境車庫（バス停） バスの遅延時間が16分改善（18分→2分）

さらに11月末までに東名高速から東北道が圏央道でつながります。

平成27年11月末までに圏央道（桶川北本IC～白岡菖蒲IC間）が開通します。

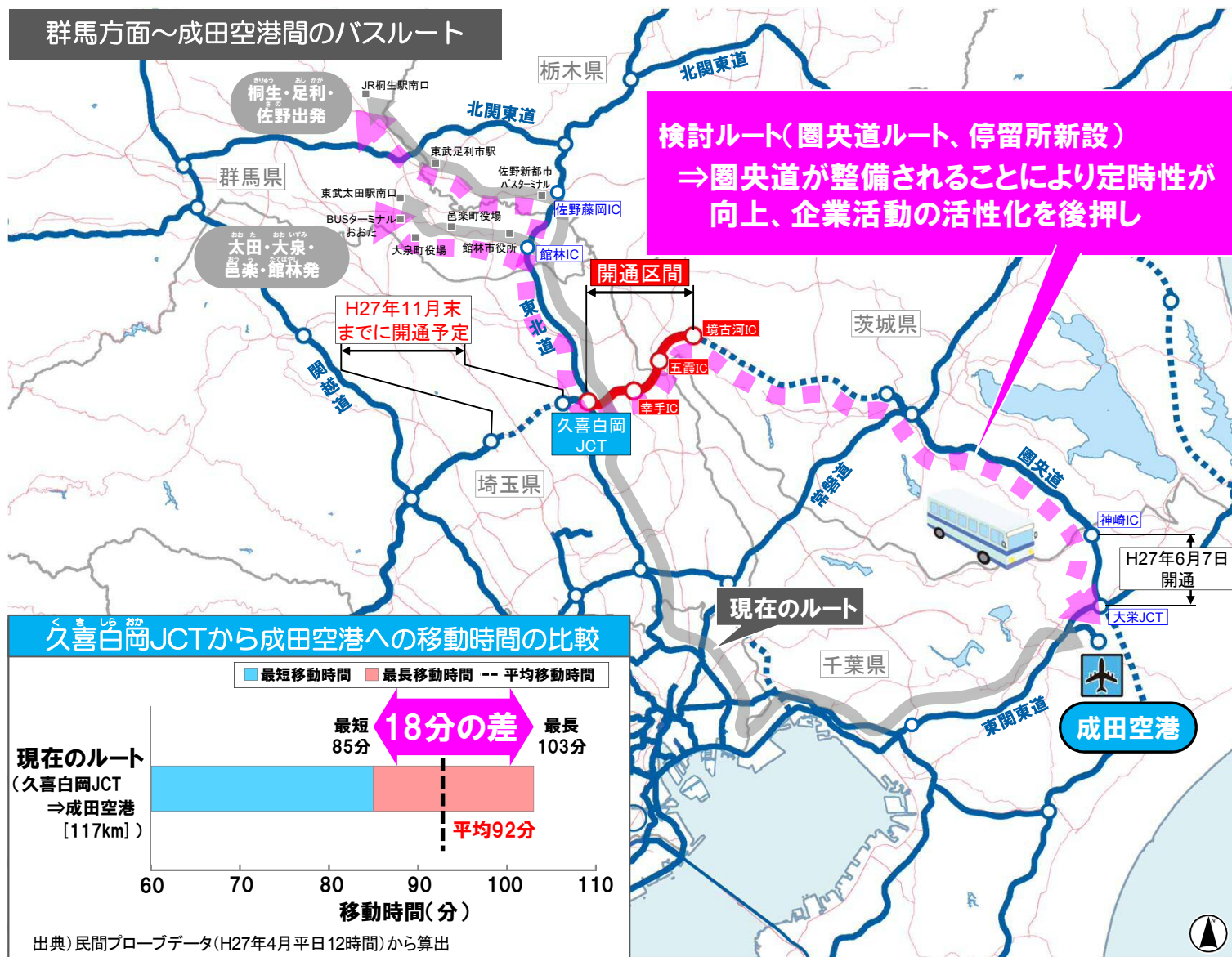
- ・広域ネットワークが形成され、北関東方面から湘南方面へのアクセスが強化
- ・沿線に立地する物流施設などの利便性が高まり、企業活動をさらに支援するなどの効果が見込まれます。

効果①

- 群馬方面～成田空港間の高速バスは、現在、都心経由で運行されており、移動時間に差が大きくでている状況。
- 次々とつながる圏央道の開通を^{にら}み、高速バスの運行ルートの変更や停留所の新設が検討されるなど、企業活動の活性化を後押し。
- 圏央道ルートへの変更により、都心を通らず成田空港に直接アクセスできるため、定時性の向上や時間短縮を期待しているとの声。

成田空港行き高速バスのルート変更や停留所の新設を検討

群馬方面～成田空港間のバスルート



関東自動車株式会社の声

既設の高速バスルートの変更や新たな停留所の設置を検討！



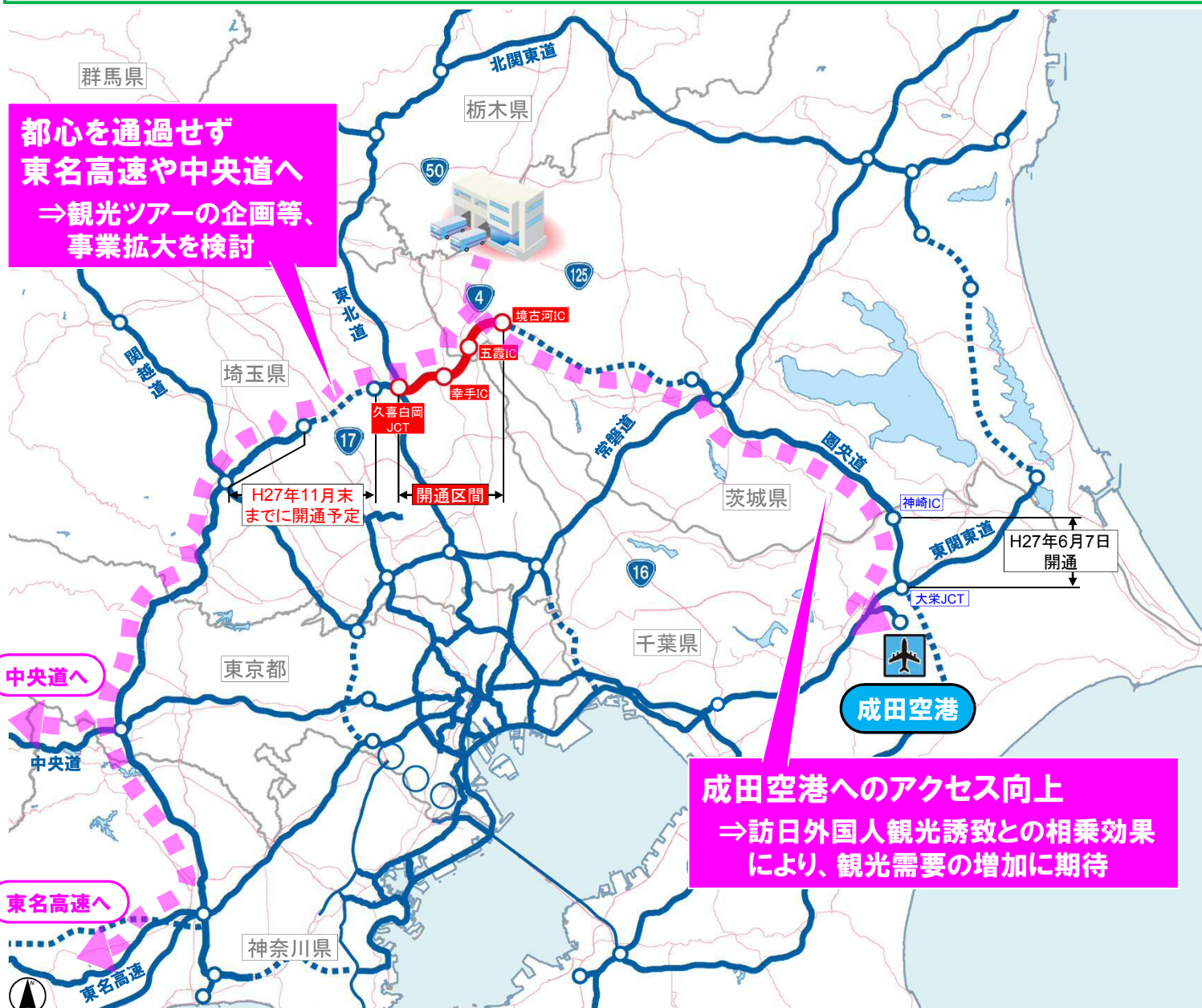
- ・当社では、高速（空港）バスをはじめ、路線バスや貸切バス等の運行を行っています。
- ・そのうち、群馬県内から成田空港行きの高速（空港）バスでは、**圏央道（茨城區間）の全線開通後に、時間短縮が見込まれる圏央道ルートへの変更を検討**しています。また、運行ルートの変更にあわせて、**新たな停留所の設置も検討**しています。
- ・圏央道がつながると、首都高を通らず成田空港に直接アクセスできるため、**定時性の向上や時間短縮が期待**できます。また、広域的なネットワークが形成されるため、**停留所の新設や運行可能ルートの増加が期待**できます。

出典)平成27年6月 ヒアリング調査(北首都国道事務所調べ)

効果② 民需の拡大 ～広域的な観光交流の促進～

- 沿線の観光バス事業者では、圏央道の開通を契機に新規バス購入による事業拡大を検討するなど、民間投資を喚起。

圏央道の整備により、広域的な観光交流が促進



総和観光株式会社の声

圏央道開通を契機に新規バス購入による事業拡大を検討！

- ・当社では、観光・送迎等の貸切バスの運行や国内・国外の旅行販売を行っています。
- ・今回の開通を契機として、当社では事業拡大を視野に入れ、1月～6月にかけて**新規バスを15台増車**し、現在の所有台数は50台となり、**さらに新規5台の増車を予定**しています。
- ・特に、よく外国人の送迎も行っていますので、**圏央道開通と国が推進している訪日外国人観光誘致との相乗効果により、さらに観光需要が増加することを期待**しています。
- ・今後の圏央道開通により、**都心を通過せず、東名高速や中央道、さらには成田空港へのアクセスも向上**するため、**自社でもツアー企画を検討するなど、事業を上げていきたい**と考えています。

出典) 平成27年6月 ヒアリング調査(北首都国道事務所調べ)

効果③ 地域交通状況の改善

- 開通区間に並行して走行する路線バスでは、4車線で開通した国道4号春日部古河バイパス（新4号バイパス）や圏央道に交通転換が図られ、バス停間の定時性が向上。
- 路線バス利用者は、目的地への到着時間の遅れやバスの待ち時間が減ったことを実感。

路線バスの定時性が向上

朝日自動車株式会社の声

路線バスの定時性が向上、地域間の交流に期待！



- ・新4号バイパスの4車線化や圏央道の開通により、平日の朝夕混雑時間帯を中心とした境大橋付近の渋滞が緩和され、バスの定時性が向上しました。

出典) 平成27年6月 ヒアリング調査(北首都国道事務所調べ)

路線バス利用者の声



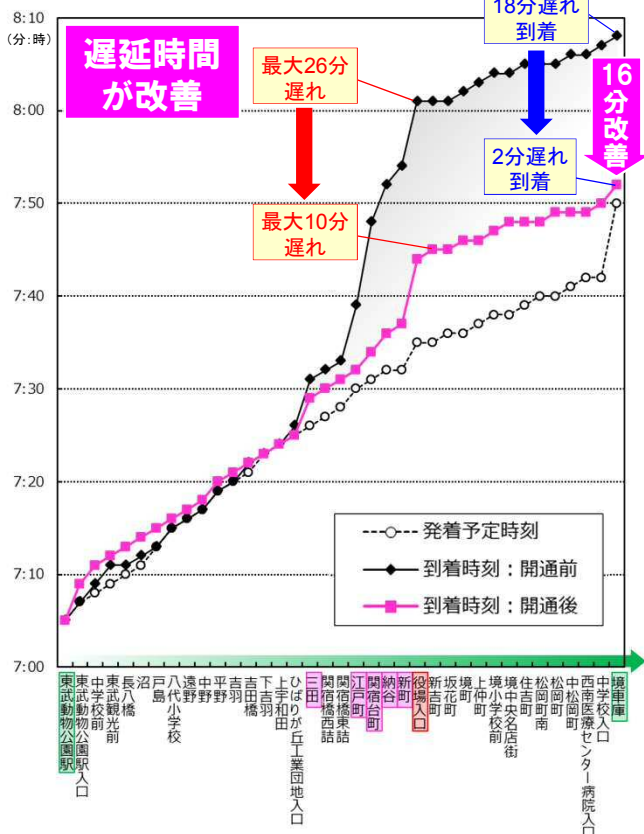
(50代、女性)

- ・以前は渋滞により到着時間が遅れることがありましたが、**現在では遅れることは殆どなくなり、とても良くなりました。**
- ・帰りも遅れることが殆どなくなり、**バスが到着するまでの待ち時間が減るなど助かっています。**

出典) 平成27年7月 ヒアリング調査(北首都国道事務所調べ)

バス停間の所要時間の変化※

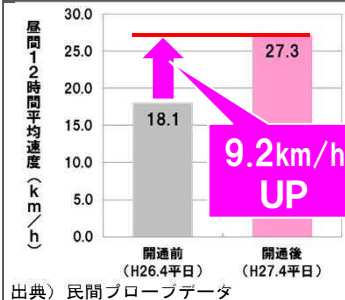
※ 7時台出発・下り（東武動物公園駅⇒境車庫行き）



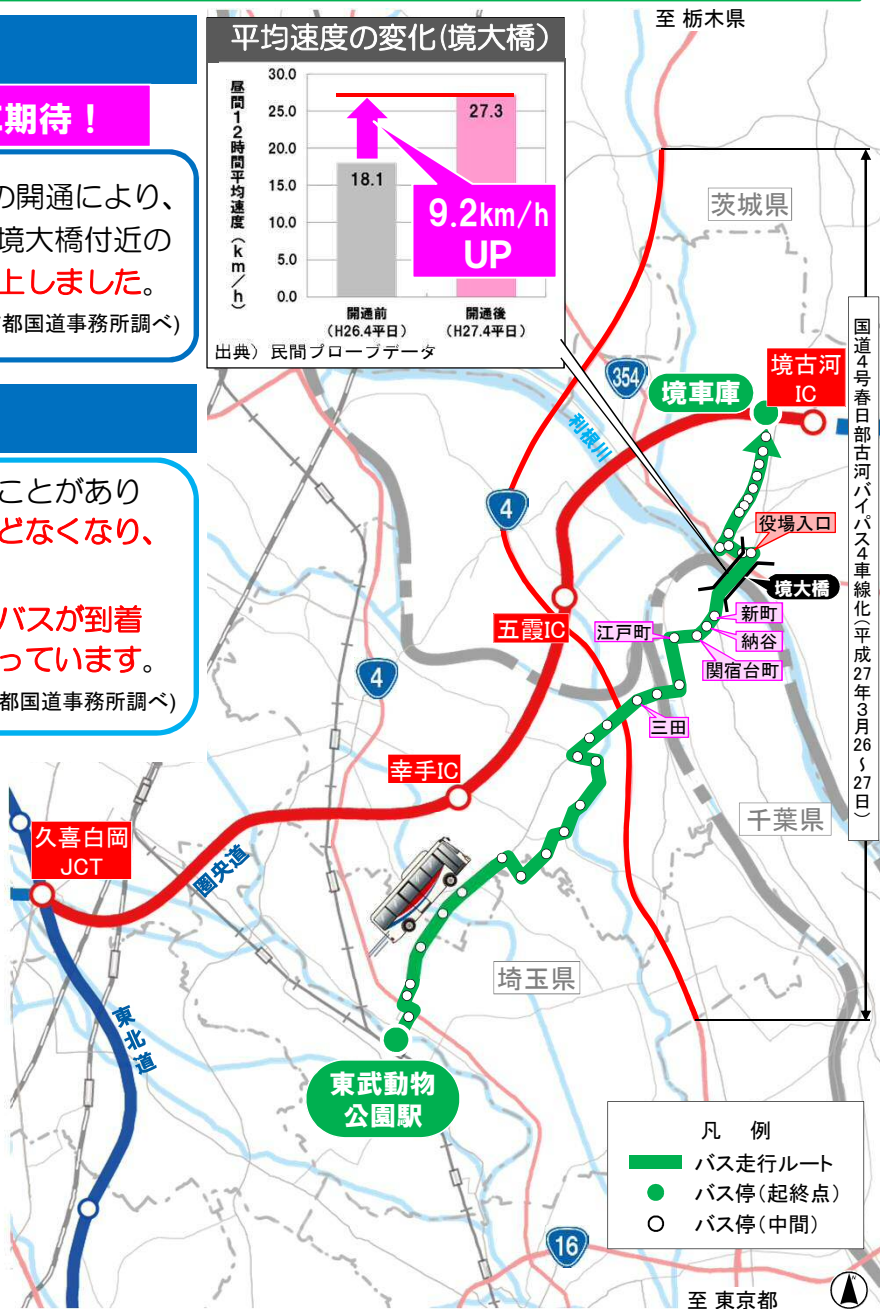
出典) 国土交通省データ（バス走行状況調査）

開通前：平成27年 2月 4日(水) 開通後：平成27年 6月23日(火)

平均速度の変化(境大橋)



出典) 民間プローブデータ



路線バスの走行状況（境大橋）



撮影：平成27年2月4日(水)8時台

撮影：平成27年6月23日(火)8時台

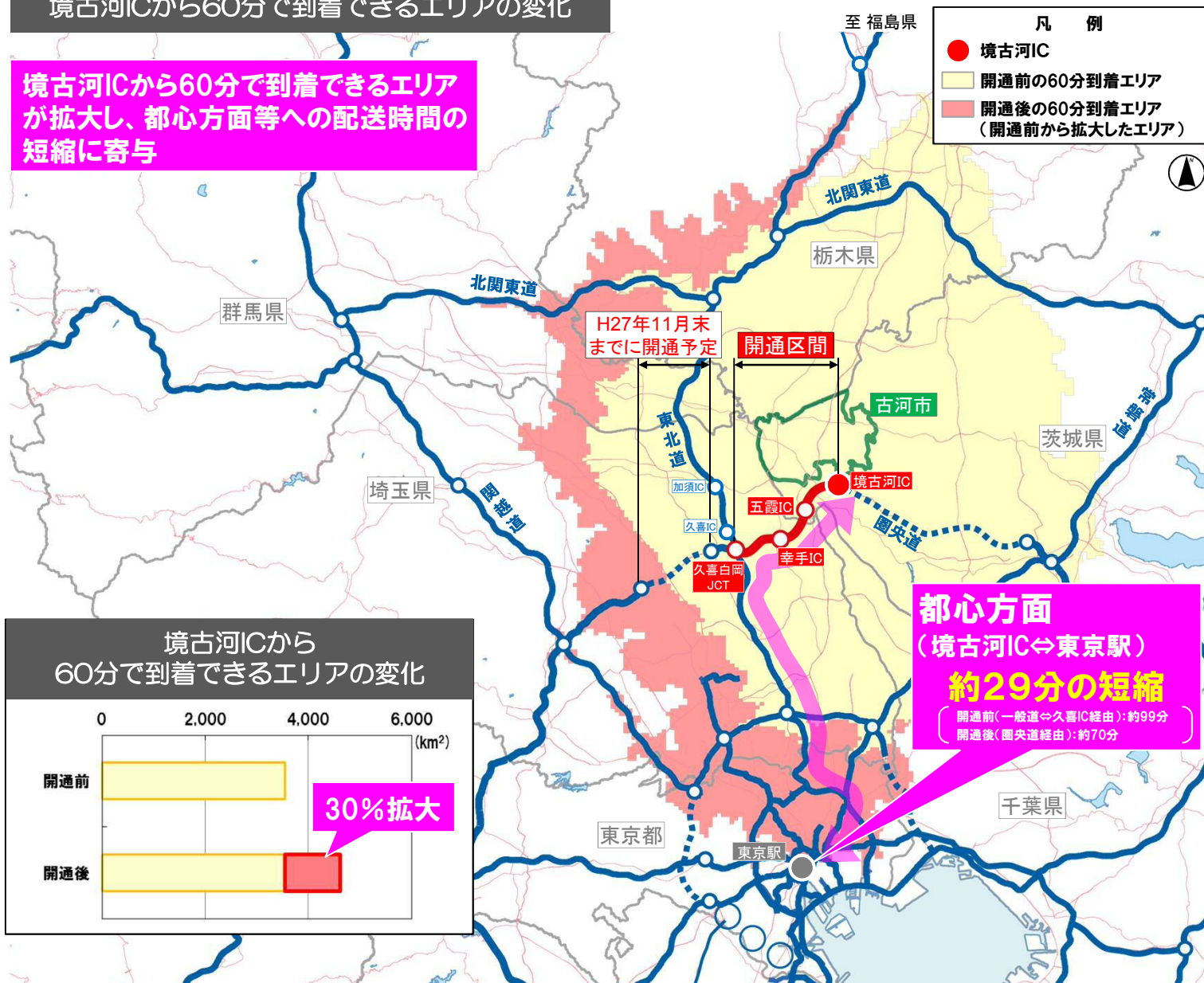
効果④ 企業活動の効率化 ～時間短縮効果～

- 東北道との接続により、開通区間沿線から60分で到着できるエリアが拡大。
(参考：境古河IC⇄東京駅間の移動時間が約29分短縮(約99分→約70分))
- 都心方面等への配送時間の短縮や物流の効率性向上に寄与。

開通区間沿線から60分で到着できるエリアが拡大

境古河ICから60分で到着できるエリアの変化

境古河ICから60分で到着できるエリアが拡大し、都心方面等への配送時間の短縮に寄与



出典) 民間プローブデータ(開通前: H26年4月平日12時間平均、開通後: H27年4月平日12時間平均から算出)
60分で到着できるエリアは500mメッシュ単位で計測し、カバー面積は該当するメッシュを集計

高塚運送株式会社(古河市内)の声



- ・当社は、衣料品や食品、自動車部品など物流全般を包括的に請け負っている運送会社です。圏央道の開通区間は**とても便利であるため、月に20回程度**、境古河ICから使っています。
- ・これまで、**池袋方面への配送は約90分かかっていましたが、約60分で到着できるようになりました。**
- ・圏央道が全線開通した場合、**さらに便利になるので運行ルートを見直し、ドライバーの拘束時間を短縮させるなど、業務効率の向上が期待**されます。

出典) 平成27年7月 ヒアリング調査(北首都国道事務所調べ)

【参考】開通後の交通状況

● 圏央道の開通3ヶ月後の日交通量は、平均2,100～5,600台/日。

圏央道（久喜白岡JCT～幸手IC間）：5,600台/日

圏央道（幸手IC～五霞IC間）：4,500台/日

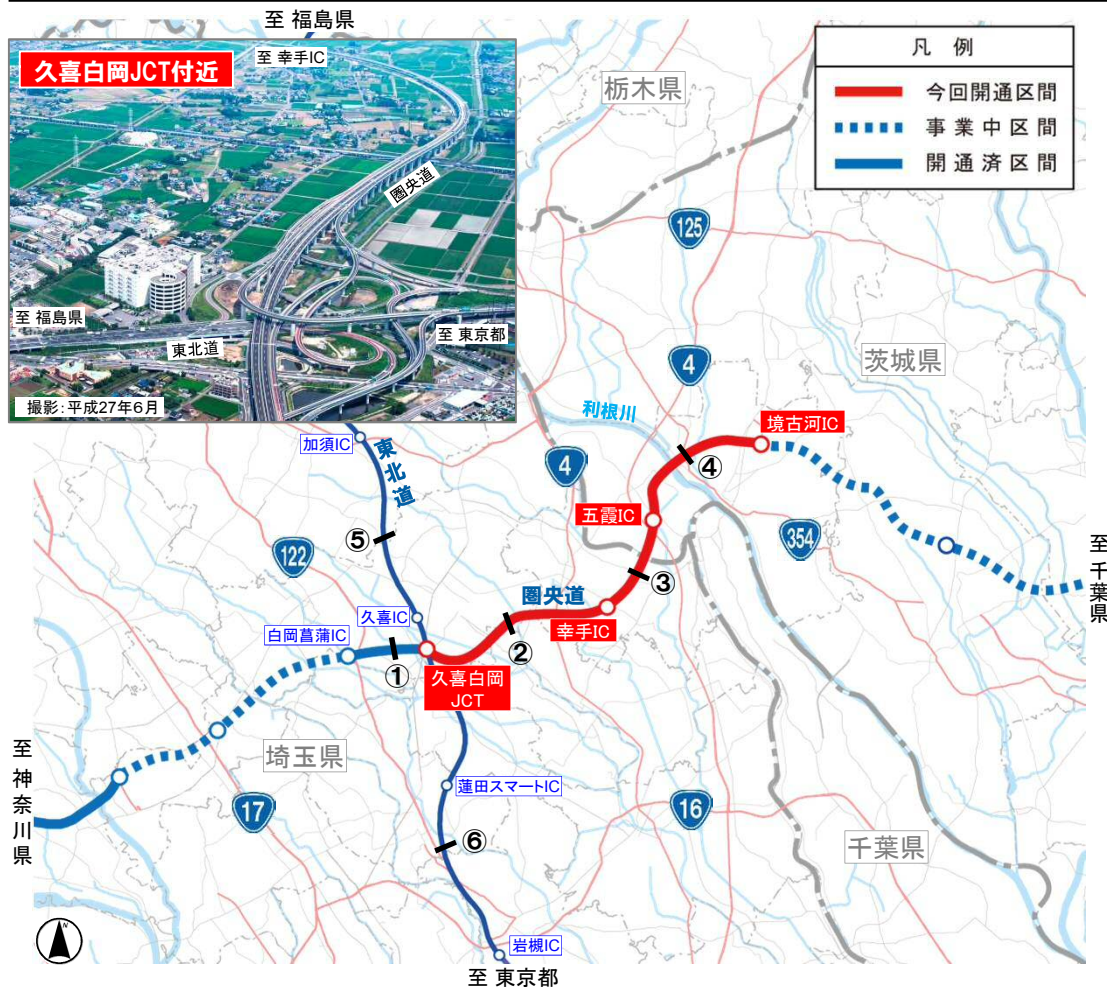
圏央道（五霞IC～境古河IC間）：2,100台/日

● これまで開通していた白岡菫蒲IC～久喜白岡JCT間の交通量は、対前年同期間比較で増加。東北道は対前年同期間比較で大きな変化なし。

圏央道（白岡菫蒲IC～久喜白岡JCT間）：6,700台/日→8,600台/日[28%増]

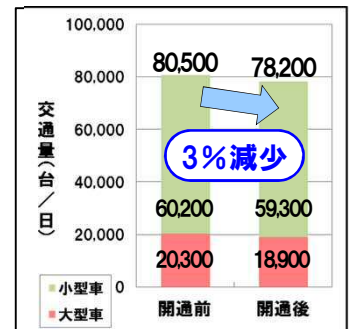
東北道（久喜IC～加須IC間）：80,500台/日→78,200台/日[3%減]

東北道（岩槻IC～蓮田スマートIC間）：90,300台/日→89,200台/日[変化なし]

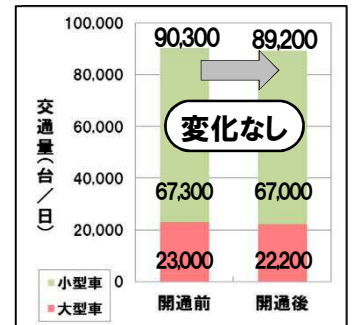


東北道(⑤, ⑥)

⑤久喜IC～加須IC(圏央道外側)

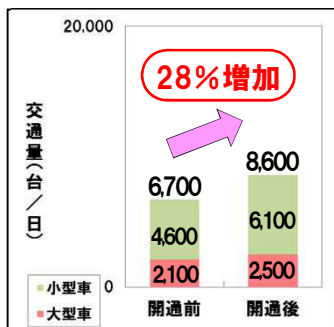


⑥岩槻IC～蓮田スマートIC(圏央道内側)

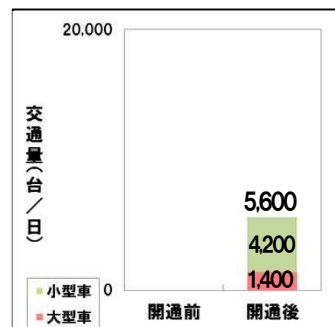


圏央道(①, ②, ③, ④)

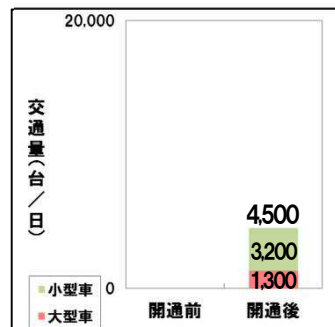
①白岡菫蒲IC～久喜白岡JCT(東北道以西)



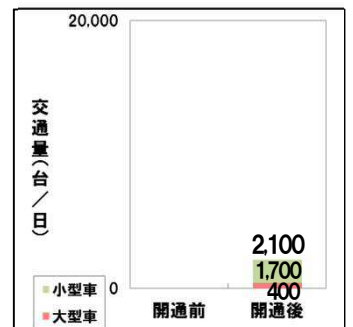
②久喜白岡JCT～幸手IC(東北道以东)



③幸手IC～五霞IC(東北道以东)



④五霞IC～境古河IC(東北道以东)



出典) NEXCOデータ

開通前：平成26年3月31日(月)～6月30日(月)の日交通量の平均値(92日間)

開通後：平成27年3月30日(月)～6月29日(月)の日交通量の平均値(92日間)

【参考】開通後の交通状況

- 開通区間(五霞IC)にアクセスする国道4号春日部古河バイパス(新4号バイパス)が4車線で開通しており、交通量が増加。

新4号バイパス(新利根川橋断面)：32,900台/日→38,200台/日[16%増]

新4号バイパス(菱沼北断面)：22,600台/日→27,600台/日[22%増]

- これまで開通していた白岡菖蒲ICにアクセスする国道122号の交通量が増加。

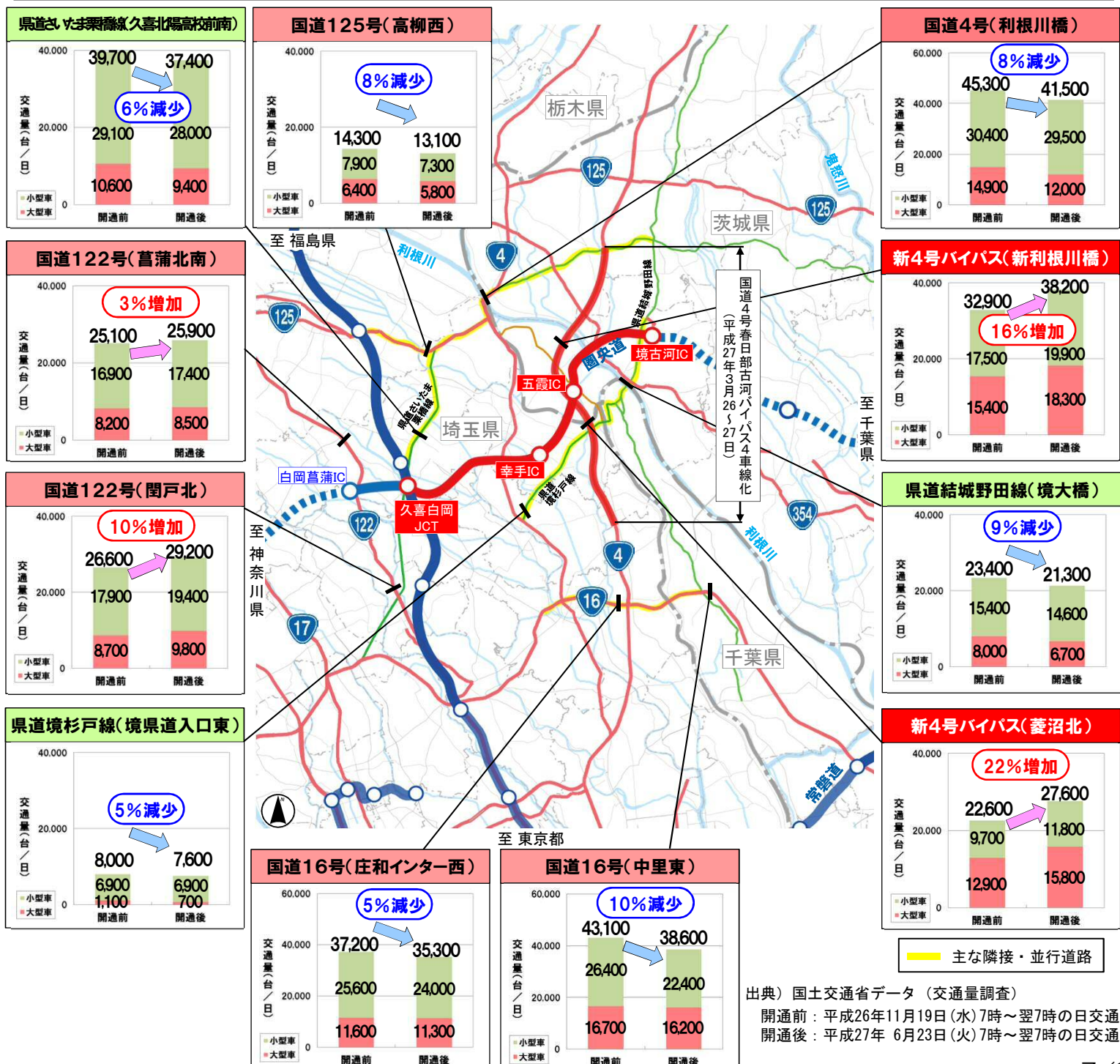
国道122号(菖蒲北南断面)：25,100台/日→25,900台/日[3%増]

国道122号(関戸北断面)：26,600台/日→29,200台/日[10%増]

- 開通区間に隣接・並行する一般道では交通量が減少しており、開通区間等への転換が図られている。

国道16号(中里東断面)：43,100台/日→38,600台/日[10%減]

県道結城野田線(境大橋断面)：23,400台/日→21,300台/日[9%減]



圈央道開通区間概要

- 首都圏中央連絡自動車道（圏央道）は、首都圏の道路交通の円滑化・環境改善、沿線都市間の連絡強化等を目的とした都心から半径およそ40～60kmの位置に計画されている総延長約300kmの環状の自動車専用道路です。現在までに約230kmが開通しています。

● 今回開通区間の概要

路線名：国道468号首都圏中央連絡自動車道（圏央道）

開 通 区 間：久喜白岡JCT(埼玉県久喜市下早見)～境古河IC(茨城県猿島郡境町西泉田)

開 通 日 時：平成27年3月29日（日）15時

延長：19.6 km

車線数：暫定2車線

開 通 IC：幸手IC、五霞IC、境古河IC

アクセス道路：(一) 惣新田幸手線、新4号バイパス、国道354号バイパス

■今回開通区間の位置図

